

【技 1-21】

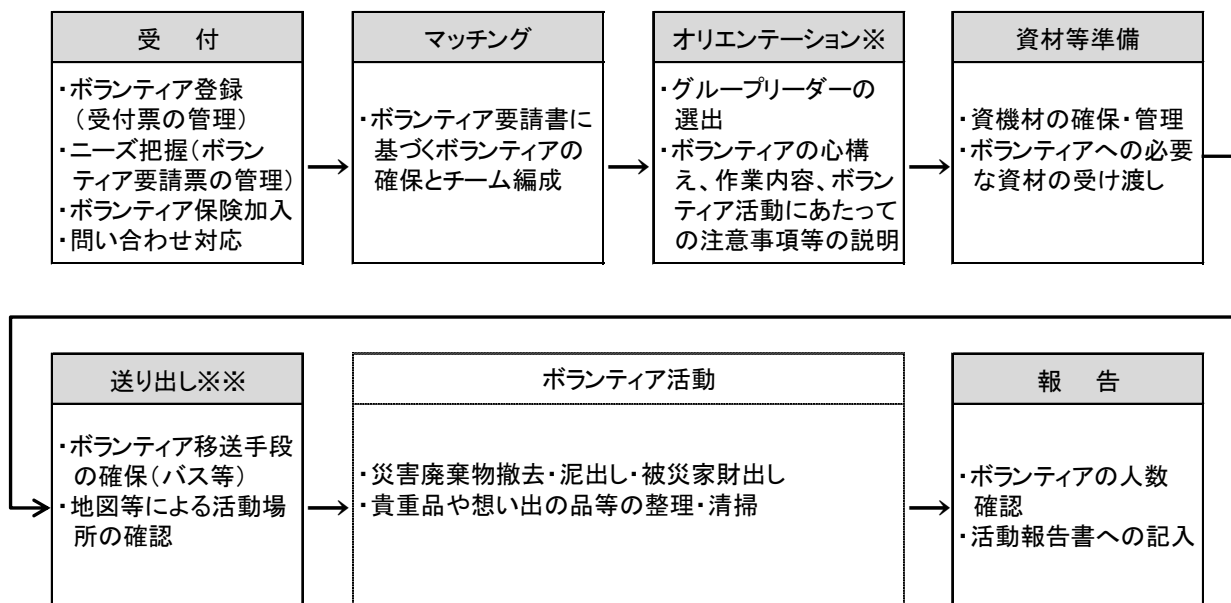
被災地でのボランティア参加と受け入れ

【基本的事項】

- 被災地での災害ボランティア活動には様々な種類がある。廃棄物・資源循環にかかわるものとしては、①災害廃棄物の撤去・泥出し・被災家財出し、②貴重品や思い出の品等の整理・清掃等が挙げられる。
- ボランティア活動は上記のとおり、災害廃棄物処理に係る事項が多い。したがって、今後の災害廃棄物処理を見据え、活動開始時点において災害廃棄物の分別方法や搬出方法、搬出先（仮置場）、保管方法を災害廃棄物処理の担当者がボランティアに対して事前に説明を行っておくことが望ましい。
- 復旧段階では災害ボランティアが多人数必要となるため、混乱を招かないために行政・社会福祉協議会・ボランティア連絡会等によって災害ボランティアセンターを設置し、現地ニーズと人材のマッチングを行う。また、予めボランティア全体の統括者（コーディネータ）を選任し、ボランティアへの情報共有と現場での安全管理を行う。

【ボランティアセンターでの作業フロー】

ボランティアセンターでの作業の流れはだまかに下図の通りである。



※オリエンテーションはマッチングの前に行う場合がある。

※※送り出しは資材等準備の前に行う場合がある。

図 ボランティアセンターでの作業フロー

STEP1 受付・マッチング・オリエンテーション

- ボランティア希望者は、「名前」「住所」「専門技術・資格」「ボランティア経験」等について受付票等に記入し、ボランティアセンターへ提出する。
- ボランティア要請者は、依頼内容を記入したボランティア要請票等に記入し、ボランティアセンターへ提出する。
- ボランティア要請書に基づいてボランティアを確保し、支援先ごとにグループを編成する。

- ボランティアの心構え、作業内容、ボランティア活動にあたっての注意事項等を説明する。災害廃棄物の処理に関わるボランティアに対しては、分別方法や搬出方法、搬出先（仮置場）、保管方法について説明を行う。分別や排出方法を分かりやすく説明した「災害廃棄物早見表」を配布・共有しておくが良い。

【留意点】

- ボランティアの安全を確保するため、ボランティアセンターが設置されるまで、外部からのボランティア受入れは行わない。
- ボランティア希望者は、できる限り仲介団体を利用して現地に赴くことが望ましい。
- ボランティア希望者には必ずボランティア活動保険に加入してもらう。
- 災害廃棄物の撤去現場には、ガスボンベなどの危険物が存在するだけでなく、建材の中には石綿を含有する建材が含まれている可能性があることから、ボランティア活動にあたっての注意事項として必ず伝えるとともに、危険物等を取り扱う可能性のある作業は行わせないこと。

STEP2 資材準備・送り出し

- ボランティア活動に必要な資機材等を調達し、ボランティアへの貸出および在庫管理を行う。
- 地図等で活動場所を確認し、活動先までの移送手段（バス等）を確保する。

【留意点】

- 災害ボランティアの装備は基本的に自己完結だが、個人で持参できないものについては、可能であればボランティアセンターで準備する。特に災害廃棄物の処理現場においては、粉塵等から健康を守るために必要な装備（防じんマスク、安全ゴーグル・メガネ）は必要である。災害廃棄物の撤去を依頼するだけでなく、活動者の安全を守ることも災害廃棄物処理担当者の役目である。

表 災害廃棄物関連ボランティアに必要な物資および標準的な装備の例

災害廃棄物関連ボランティアに必要な物資の例
<ul style="list-style-type: none"> 木工用カッターやノコギリ等（畳や角材の切断、場合によっては木製家具等の破砕のため） スコップ（泥の排出のため） フレコンバッグ※等泥入れ 手押し車 （場合によってお掃除用の）バケツ・ホース・雑巾・ゴミ袋
災害廃棄物関連ボランティアの標準的な装備の例
<ul style="list-style-type: none"> 汚れてもよい服装（長袖、長ズボン）、底に鉄板の入った安全靴、帽子・ヘルメット、着替え 防じんマスク、安全ゴーグル・メガネ 軍手（できればゴム製）、ゴミ袋 タオル、除菌ウェットティッシュ、消毒液、虫除けスプレー（夏場は必需） （災害初期等）テントと寝袋 食料、飲料水、簡易トイレ 身分証明書（運転免許証、健康保険証等）、常備薬（目薬、うがい薬等） ラジオ（余震等の情報をスムーズに得て二次災害を防止するため）等

※フレキシブルコンテナバッグの略称。丈夫な化学繊維で織られたシートとベルトより構成される大きな袋で、一般的に、粉末や粒状物の重量物を保管・運搬するために用いられる。土嚢（どのおう）等としての利用もよく見かける。専門店やホームセンターで入手可能である。

STEP3 ボランティア活動・報告

- ・ 派遣先にて指示されたボランティア活動を行う。（災害廃棄物撤去・泥出し等）
- ・ ボランティア終了後はボランティアセンターにて人数確認と活動報告を行う。撤去した災害廃棄物の量（フレコンバッグの数）や種類、搬出先について報告してもらうことで、災害廃棄物の数量管理に役立てることができる。

【留意点】

- ・ 破傷風、インフルエンザ等の感染症予防および粉じんやハエに留意する。予防接種のほか、けがをした場合は、綺麗な水で傷を洗い、速やかに最寄りの医療機関にて診断を受けること。
- ・ 津波や水害の場合、被災地を覆った泥に異物や汚物が混入おり、通常の清掃作業以上に衛生管理の徹底を図る必要がある。また、時間が経つほど作業が困難になるため、復旧の初期段階で多くの人員が必要となる。

参考：

「災害ボランティアセンター運営マニュアル」（平成20年3月、社会福祉法人 糸魚川市社会福祉協議会）

「災害ボランティア活動ハンドブック」（平成21年3月、滋賀県災害ボランティア活動連絡会）

「水害ボランティア作業マニュアル」（特定非営利活動法人レスキューストックヤード）

参考URL：

福岡県NPO・ボランティアセンター「ふくおか協働ひろば」『水害時のボランティア活動』：
(<http://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/kinds/calamity10.html>)